

胃がん検診未受診者に対する訪問指導の効果

— 胃がん予防のための意識・行動変容 —

富山県立総合衛生学院保健学科

岡島 有紀, 神田 和美, 杉野 美紀
 武田 真理子, 中村 明子, 廣田 久美子
 山根 美樹, 米田 小百合

富山医科薬科大学保健医学

松原 勇, 鏡森 定信

I. はじめに

胃がんによる死亡率は平成2年度で人口10万対、全国38.7、富山県55.1、富山市52.5と、依然悪性新生物の部位別死亡割合の第一位である。新庄地区においても、68.2とさらにそれを上回る高率であり、また胃がん検診受診率が上昇しているにも関わらず死亡率が減少していない状況にあることが地区把握により明らかになった。このため胃がん予防に対する取り組みが大切と考えた。

金子らは、「家庭訪問による通知が受診率に対して有意な正の関与を示した¹⁾」と報告している。そこで、今回私達は家庭訪問指導により、受診勧奨と胃がん予防についての生活指導を行い、それによる意識及び行動変容の効果について検討したのでここに報告する。

— 調査対象の構成 —

表1. 訪問群

	対象	面接できた 人数	アンケート 回収数 (率)
男	50人	30人	27人 (90.0%)
女	93	78	64 (82.1%)
合計	143	108	91 (84.3%)

II. 方 法

1. 調査対象

調査対象は富山市新庄地区の2地区における胃がん検診3年以上未受診者（平成4年7月末日現在）全員、男性40歳代から80歳代の94人女性40歳代から80歳代の188人、計282人をランダムに2群に分別した。訪問群・未訪問群の年齢・性別を χ^2 検定した結果、有意な差は見られず無作為抽出による選択の偏りはなかった。

2. 調査方法

1) 訪問群には胃がん検診受診を促すためパンフレット（別紙参照）を作成し、訪問指導を行った。その内容は①新庄地区では胃がんが死亡する人が多いこと②新庄地区内で胃がん検診を受けれる医療機関を紹介するなど、新庄地区の特性に合わせたものとした。この他、③胃がんの早期発見の重要性④日常生活

表2. 未訪問群

	対象	アンケート 回収数 (率)
男	44人	29人 (65.9%)
女	95	68 (71.6%)
合計	139	97 (69.8%)

における胃がん予防のあり方についても指導した。未訪問群については、訪問による受診勧奨・保健指導は実施せず、比較対象とした。

富山市からの胃がん検診受診勧奨のハガキ、がん対策推進員等の訪問は従来通り両群共に行われており、学生の訪問以外両群に違いはないものとした。(訪問実施期間は平成4年8月8日から8月12日までの5日間)

2) 訪問から1カ月後両群に胃がん検診調査票を郵送し、自記式留置法で調査した。訪問から1カ月後としたのは、がん対策推進員等の働きかけが行われる前に学生の訪問による効果を正確に把握するためである。

有効回答者は訪問群91人、未訪問群97人(計188人)、有効回収率は訪問群84.3%、未訪問群69.8%であった。(表1、表2参照)この調査では①訪問指導による受診行動・意識変容に対しては χ^2 検定により、②胃がん予防にとって大切だと思う食品については一対比較法によって検討した。また、③胃がん検診に対する住民の意識についてみた。

III. 結 果

1. 訪問指導による受診行動

学生の訪問指導後の胃がん検診受診者数を表3にまとめた。以下の集計では訪問前に胃がん検診を受けていたものは除外した。訪問指導による受診勧奨で訪問指導後1カ月以内に、未訪問群に比較して受診行動に差異はみられなかった。

2. 訪問指導による意識の変容

次に胃がん検診に対する住民の意識につい

てみた。「胃がん検診を受けた」、あるいは「これから胃がん検診を受けようと思っている」と答えた人の、胃がん検診を受けようと思ったきっかけをまとめた(表4)。胃がん検診を受けようと思ったきっかけで、訪問群において有意に多かったのは、『新庄では胃がんで死亡する人が多いことを知ったから』であり、訪問群10人(34.5%)、未訪問群1人(2.5%)であった。この他のきっかけでは訪問群・未訪問群に有意な差はみられなかった。

次に、胃がん検診を受けようと思ったきっかけをみた。訪問群と未訪問群で差がみられなかったので、両群をあわせて結果を図1に示した。その傾向は、『早期発見が大切であることを知ったから』が70人で83.3%を占めている。次いで、『近所で胃がん検診を受けられることを知ったから』が28人(38.4%)、『家族・知人に勧められたから』が23人(30.7%)であった。最も多かった『早期発見が大切であることを知ったから』は、それに次ぐ『近所で胃がん検診を受けられることを知ったから』と比べても倍以上の割合を示し、群を抜いて多い。

3. 胃がん予防につながる食事についての指導効果

訪問群にはパンフレットを用い①緑黄色野菜②減塩が胃がん予防に効果があると指導した。そして1か月後のアンケートで指導の効果をみた。アンケートでは胃がん予防にとって大切だと思う食品を①緑黄色野菜②減塩③牛乳④卵の中から2食品をそれぞれ組み合わせ、一対比較法でどちらがより大切か選んで

表3. 学生の訪問指導後の胃がん検診受診者数

	受けた	受けていないし、 これからも受けない	これから 受けようと思う	合 計
訪 問	4人(5.0%)	34人(42.5%)	42人(52.5%)	80人(100.0%)
未訪問	5 (5.9%)	32 (37.6%)	48 (56.5%)	85 (100.0%)
合 計	9 (5.5%)	66 (40.0%)	90 (54.5%)	165 (100.0%)

表4. 胃がん検診を受けようと思ったきっかけ

—学生訪問後胃がん検診を受けた人, これから受けようと思った人—

	訪 問				未 訪 問				総 数	P
	はい	いいえ	どちらとも いいい	計	はい	いいえ	どちらとも いいい	計		
a) 家族・知人に勧められたから	10 (31.2)	16 (50.0)	6 (18.8)	32 (100.)	13 (30.2)	23 (53.5)	7 (16.3)	43 (100.)	75 (100.0)	
b) 新庄では胃がんで死亡する人が 多いことを知ったから	10 (34.5)	15 (51.7)	4 (13.8)	29 (100.)	1 (2.5)	35 (87.5)	4 (10.0)	40 (100.)	69 (100.0)	***
c) 早期発見が大切であると知った から	29 (85.3)	4 (11.8)	1 (2.9)	34 (100.)	41 (82.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	50 (100.)	84 (100.0)	
d) 近所で胃癌検診を受けられるこ とを知ったから	11 (37.9)	14 (48.3)	4 (13.8)	29 (100.)	17 (38.6)	23 (52.3)	4 (9.1)	44 (100.)	73 (100.0)	
e) 検診が受付⇒問診⇒撮影という 流れですむことを知ったから	6 (23.1)	18 (69.2)	2 (7.7)	26 (100.)	12 (27.9)	27 (62.8)	4 (9.3)	43 (100.)	69 (100.0)	
f) バリウムが飲みやすくなったか ら	9 (30.0)	17 (56.7)	4 (13.3)	30 (100.)	12 (27.9)	27 (62.8)	4 (9.3)	43 (100.)	73 (100.0)	
g) 検診後, 便秘にならないための 対処方法について知ったから	5 (17.9)	21 (75.0)	2 (7.1)	28 (100.)	5 (11.9)	29 (69.0)	8 (19.1)	42 (100.)	70 (100.0)	
h) 訪問で行かなければ悪いと思っ たから	8 (28.6)	17 (60.7)	3 (10.7)	28 (100.)	4 (10.3)	29 (74.3)	6 (15.4)	39 (100.)	67 (100.0)	
i) 毎年検診を医療機関や職場で受 けているから	5 (17.9)	22 (78.6)	1 (3.5)	28 (100.)	14 (31.1)	27 (60.0)	4 (8.9)	45 (100.)	73 (100.0)	
j) 自覚症状があったから	3 (10.3)	24 (82.8)	2 (6.9)	29 (100.)	3 (6.8)	38 (86.4)	3 (6.8)	44 (100.)	73 (100.0)	
k) 家族・知人ががんだったら	7 (25.9)	18 (66.7)	2 (7.4)	27 (100.)	11 (25.6)	31 (72.1)	1 (2.3)	43 (100.)	70 (100.0)	

* P<0.1 ** P<0.01 *** P<0.001

図1. 胃がん検診を受けようと思ったきっかけ (訪問群・未訪問群の合計)

—学生訪問後胃がん検診を受けた人, これから受けようと思った人—

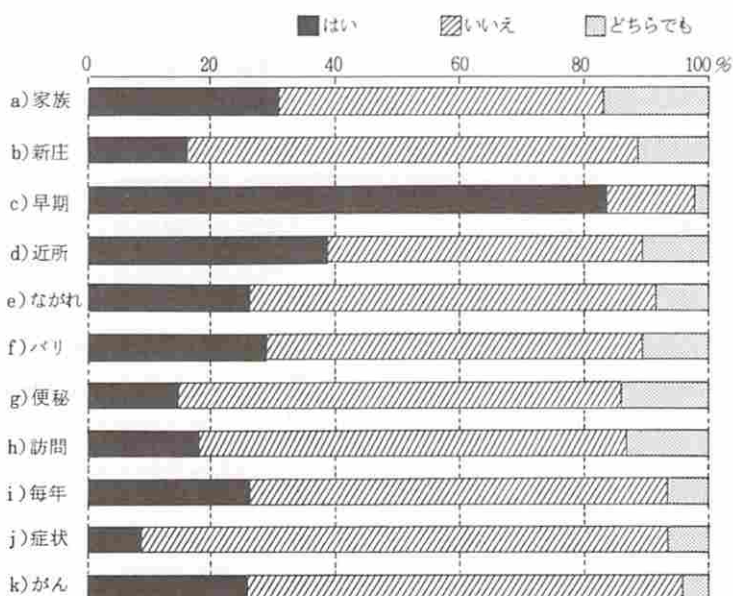


表5. 訪問群

	①緑黄色野菜	②減塩	③牛乳	④卵
①緑黄色野菜	— (0.50)	77 (0.48)	45 (0.28)	18 (0.11)
②減塩	85 (0.52)	— (0.50)	57 (0.35)	24 (0.15)
③牛乳	118 (0.72)	108 (0.65)	— (0.50)	26 (0.16)
④卵	146 (0.89)	138 (0.85)	133 (0.84)	— (0.50)
Σp	2.63	2.48	1.97	0.92

もらった。①緑黄色野菜②減塩は胃がん予防にとって効果があるもの、③牛乳④卵は胃がん予防の面からは特に推奨されることのないものである。結果は以下の通りである。

1) 胃がん予防にとって大切だと思う4食品の順位

比率の合計から順位をつけ、胃がん予防にとって大切だと思う4食品の比率を表5および表6に示した。

〈表の見方〉

例えば、表5. 訪問群の数字の行列の1行2列の77人とは①緑黄色野菜と②減塩とを比べて胃がん予防には②減塩の方が大切だと答えた人数であり、2行1列の85人とはその逆であり、この77と85の比率はそれぞれ0.48と0.52となる。

訪問群では胃がん予防にとって大切だと思う食品は、1位 緑黄色野菜を摂ること (Σp=2.63) 2位 減塩をすること (Σp=2.48) 3位 牛乳をよく飲むこと (Σp=1.97) 4位 卵をよく食べること (Σp=0.92) となった。また、未訪問群も、1位 緑黄色野菜 (Σp=2.67) 2位 減塩 (Σp=2.34) 3位 牛乳 (Σp=2.14) 4位 卵 (Σp=0.85) となり、訪問群・未訪問群の胃がん予防にとって大切だと思う食品に順位の差はみられなかった。

2) 胃がん予防にとって大切だと思う強さ (順序尺度)

表6. 未訪問群

	①緑黄色野菜	②減塩	③牛乳	④卵
①緑黄色野菜	— (0.50)	77 (0.43)	58 (0.34)	11 (0.06)
②減塩	101 (0.57)	— (0.50)	74 (0.41)	31 (0.18)
③牛乳	114 (0.66)	105 (0.59)	— (0.50)	19 (0.11)
④卵	167 (0.94)	146 (0.82)	155 (0.89)	— (0.50)
Σp	2.67	2.34	2.14	0.85

次に4食品のうち、よりどちらが胃がん予防にとって大切だと思うか、その強さをみるために順序尺度を用いて比較した。図2の順序尺度では、④卵を大切だと思う強さを基準として、他の3食品をそれよりどの程度大切だと思っているか、その強さの分布 (95%信頼区間) を数値で表した。この数値が大きいほど、胃がん予防にとって大切だと思う強さが大きいことを示している。

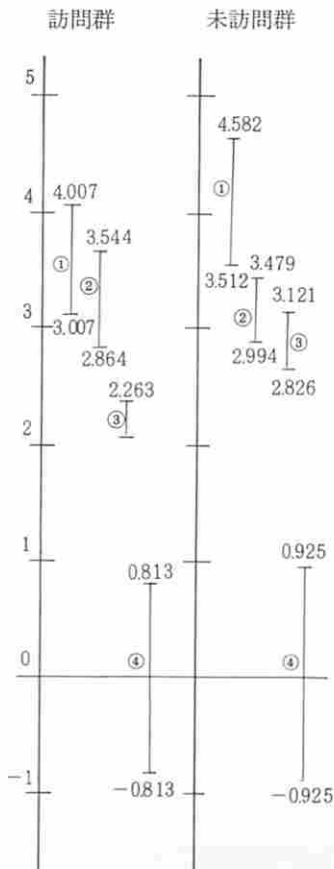
訪問群をみると1位の緑黄色野菜と2位の減塩が重なっており、これは胃がん予防にとってこの2食品が同じくらい大切だと思っていることを示している。しかし、2位の減塩と3位の牛乳は重なりがなく、これは1位の緑黄色野菜と2位の減塩の方が3位の牛乳より明らかに胃がん予防にとって大切だと思っていることを示している。

次に、未訪問群をみると1位の緑黄色野菜と2位の減塩は重なりがなく、明らかに1位の緑黄色野菜の方が2位の減塩より大切だと思っていることを示している。また、2位の減塩と3位の牛乳は重なりがあり、胃がん予防にとってこの2食品が同じくらい大切だと思っていることを示している。

4. 胃がん検診を受けなかった理由

「胃がん検診を受けていないし、これからも受けようと思わない」、あるいは「胃がん検診をこれから受けようと思っている」と答え

図2. 順位尺度図



た人の、胃がん検診を受けなかった理由を表7、表8にまとめた。これらの結果をみたところ訪問群と未訪問群の間に有意な差はみられなかった。

次に、訪問群・未訪問群をあわせて胃がん検診を受けなかった理由で多いものの傾向をみた(図3、図4)。胃がん検診を受けなかった理由で「胃がん検診を受けていないし、これからも受けようと思わない」と答えた人では、『自覚症状がないから』が最も多く、42人で85.7%を占め、次いで『忙しかったから』が22人(57.9%)、『バリウムの飲みにくさが嫌だから』が20人(50.0%)であった。

「胃がん検診をこれから受けようと思っている」と答えた人の今まで胃がん検診を受けなかった理由で最も多かったものは、前者と同様『自覚症状がないから』が40人で57.1%を占めていた。次いで、『忙しかったから』が36人(51.4%)、『毎年検診を医療機関や職場で受けているから』『バリウムの飲みにくさが嫌だから』が共に14人(22.6%)であった。

表7. 胃がん検診を受けなかった理由

—胃がん検診を受けていないし、これからも受けようと思わない人—

	訪 問				未 訪 問				総 数	P
	はい	いいえ	どちらとも いいい	計	はい	いいえ	どちらとも いいい	計		
a) 忙しかったから	12 (57.1)	6 (28.6)	3 (14.3)	21 (100.)	10 (58.8)	6 (35.3)	1 (5.9)	17 (100.)	38 (100.0)	
b) 毎年検診を医療機関や職場で受けているから	1 (6.3)	15 (93.7)	0 (0.0)	16 (100.)	2 (11.8)	15 (88.2)	0 (0.0)	17 (100.)	33 (100.0)	
c) 自覚症状がないから	18 (78.3)	4 (17.4)	1 (4.3)	23 (100.)	24 (92.3)	2 (7.7)	0 (0.0)	26 (100.)	49 (100.0)	
d) バリウムの飲みにくさが嫌だから	9 (45.0)	9 (45.0)	2 (10.0)	20 (100.)	11 (55.0)	8 (40.0)	1 (5.0)	20 (100.)	40 (100.0)	
e) 便秘になるのが嫌だから	2 (12.5)	11 (68.7)	3 (18.8)	16 (100.)	5 (29.4)	9 (52.9)	3 (17.7)	17 (100.)	33 (100.0)	

* P<0.1 ** P<0.01 *** P<0.001

表 8. 胃がん検診を受けなかった理由

—胃がん検診をこれから受けようと思っている人—

	訪 問				未 訪 問				総 数	P
	はい	いいえ	どちらとも いえない	計	はい	いいえ	どちらとも いえない	計		
a) 忙しかったから	18 (54.5)	10 (30.3)	5 (15.2)	33 (100.)	18 (48.7)	16 (43.2)	3 (8.1)	37 (100.)	70 (100.0)	
b) 毎年検診を医療機関や職場で受けているから	4 (15.4)	22 (84.6)	0 (0.0)	26 (100.)	10 (27.8)	25 (69.4)	1 (2.8)	36 (100.)	62 (100.0)	
c) 自覚症状がないから	18 (58.1)	10 (32.2)	3 (9.7)	31 (100.)	22 (56.4)	14 (35.9)	3 (7.7)	39 (100.)	70 (100.0)	
d) バリウムの飲みにくさが嫌だから	8 (30.8)	16 (61.5)	2 (7.7)	26 (100.)	6 (16.7)	28 (77.7)	2 (5.6)	36 (100.)	62 (100.0)	
e) 便秘になるのが嫌だから	7 (28.0)	16 (64.0)	2 (8.0)	25 (100.)	4 (11.1)	29 (80.6)	3 (8.3)	36 (100.)	61 (100.0)	

• P<0.1 ** P<0.01 *** P<0.001

図 3. 胃がん検診を受けなかった理由 (訪問群・未訪問群の合計)

—胃がん検診を受けていないし、これからも受けようとおもわない人—

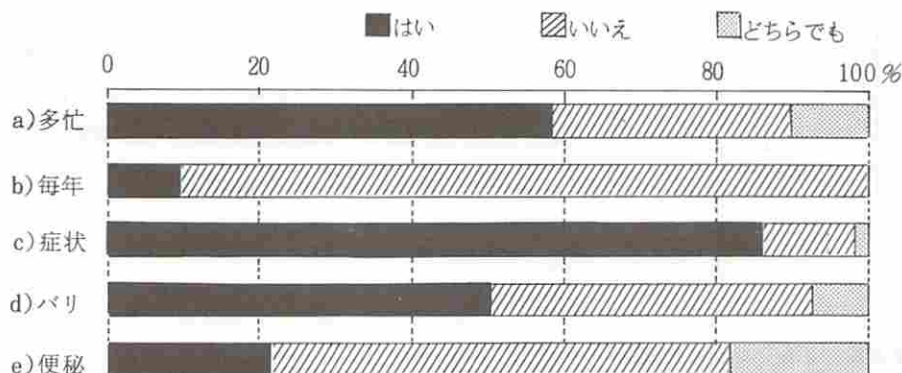
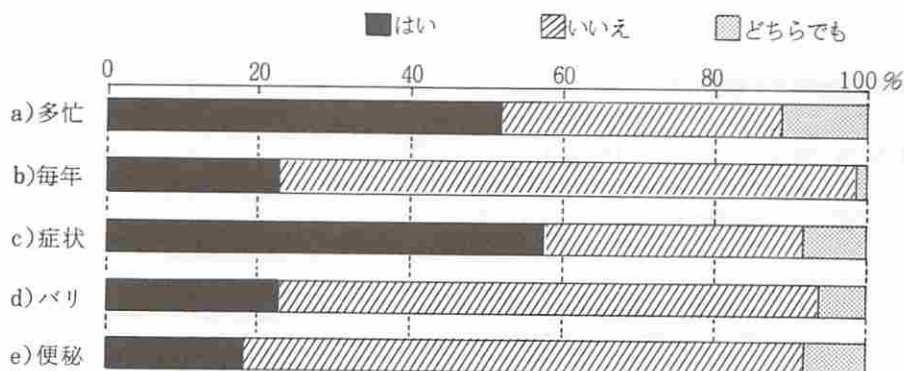


図 4. 胃がん検診を受けなかった理由 (訪問群・未訪問群の合計)

—胃がん検診をこれから受けようと思っている人—



IV. 考 察

1. 訪問指導による胃がん検診未受診者に対する受診勧奨の効果について

訪問による受診の勧めで、1カ月以内に顕著な受診行動はみられなかった。これは、訪問後1カ月でアンケートをとったため期間が短かったことやアンケートをとった時期に新庄地区で集団検診がなかったこと等、時期的な問題が挙げられる。また学生の経験不足や指導力の未熟さ等訪問指導のあり方にも問題があったのではないかと考える。

2. 訪問指導による胃がんや胃がん検診に対する意識の変容について

訪問指導の内容について考察すると、胃がん検診を受けようと思ったきっかけで『早期発見が大切であることを知ったから』と答えた人が、訪問群・未訪問群共に80%を越えている(表4)。森尾らは「男女ともがんへの知識への関心の度合いは、目につけば聞いたり読んだりする。(各々64.5%, 75.2%)という回答が最多であり、知識の入手先としてはテレビ・ラジオ(69.4%, 77.1%)が最多であった²⁾と述べている。このことから、訪問群・未訪問群を問わず一般住民は同じように胃がんや胃がん検診について情報を得る機会を持っているということがわかる。しかし、胃がん検診を受けようと思ったきっかけとして訪問群では、『新庄地区では胃がんで死亡する人が多いことを知ったから』と答えた人が未訪問群に比べて有意に多かった。この情報は一般的には住民に伝わりにくい情報で、訪問の際にも住民から「そうなの?」「本当?」等の声が聞かれた。新庄地区では胃がんで死亡する人が多いという情報から、新庄地区の住民は「自分ももしかしたら胃がんになるのでは」という不安を抱いたのではないかと考える。このことは、胃がんを自らのこととして考え、胃がん検診の必要性を判断する材料となつたのではないかと考える。

訪問指導では胃がん予防のための日常生活での留意点を指導した。アンケートでは①緑黄色野菜②減塩③牛乳④卵の4項目について、胃がん予防にとって大切だと思う食品を選択してもらった。緑黄色野菜について河内は、「がんの促進の作用を抑制する働きは、緑黄色野菜に多いビタミンAが持っている³⁾」、また食塩について加藤らは、「動物実験でもラットにおいて胃がんの発生を促進することが認められている⁴⁾と述べており、胃がん予防にとって緑黄色野菜と減塩は効果があるといえる。しかし、以前から胃粘膜を保護することで胃がん予防に効果があるとされていた牛乳については、廣畑が「Modanらの研究によれば、診断前1年以前の長期にわたる飲用状況には有意差がなかった⁵⁾と述べているように、現在ではその効果は認められていない。卵についても、その有効性は認められていない。

アンケートの結果を一对比較法により、検討した。訪問群・未訪問群とも胃がん予防にとって大切だと思う食品の順位は、1位 緑黄色野菜、2位 減塩、3位 牛乳、4位 卵であり、差はみられなかった。次に訪問指導の有無により、胃がん予防でより大切だと思う食品(順序尺度)について差があるかをみると、訪問群では緑黄色野菜と減塩が牛乳・卵より胃がん予防にとって大切だと思っている。

しかし、未訪問群では緑黄色野菜が胃がん予防にとって最も大切だと考えており、減塩と牛乳は同じくらい胃がん予防にとって大切だと思っている。訪問群・未訪問群でこのような差がみられたことは、訪問指導することで緑黄色野菜・減塩が胃がん予防につながるという正しい知識の普及につながったのではないかとと思われる。

未訪問群においては、減塩と牛乳が同じ位大切であるという結果が出た。これは、牛乳や卵は胃がん予防には結び付かないと言われているが、身体にとって有効作用をもたらす

ものであり、健康にとって大切であると認識しているためと考えられる。

3. 住民の胃がんや胃がん検診に対する意識について

次に住民の胃がんや胃がん検診に対する意識についてみた。胃がん検診を受けようと思ったきっかけをみると、『早期発見が大切であることを知ったから』と答えた人が、訪問群・未訪問群ともに80%を越え最も多かった(表4, 図1)。これは他の項目と比べて群を抜いて多く、早期発見の大切さがテレビやラジオ・パンフレット等を通して住民に与えられる機会が多い情報だからであり、住民も「がんは見つけて治療すれば治る病気である」という意識を持っていると思われる。

胃がん検診を受けなかった理由をみると、訪問群・未訪問群共に『自覚症状がなかったから』『忙しかったから』と答えた人が50%を越えている。これは、①日中は仕事で検診を受ける時間がなかなかとれない②忙しいことを理由に本心は検診を受けたくなかった。③自覚症状がないために胃がんや胃がん検診を自分のこととして捉えられず受診行動に結び付くまでに至らない。④お盆をはさみ忙しい時期であったから等が考えられる。また、『バリウムの飲みにくさが嫌だから』と答えた人のうち、「胃がん検診を受けていないし、これからも受けようと思わない」人は20人(50.0%)で、「これから受けようと思っている」人は14人(22.0%)であった。バリウムが以前に比べて「飲みやすくなった」と言われているが、まだまだ住民の中には飲みにくいという意識が根強いようである。

住民の胃がんや胃がん検診に対する意識から、胃がん検診を自ら受けている人は胃がん予防に対する意識を持っていることがわかる。今後関心のない人々にも、胃がんや胃がん検診を自らのこととして考え、行動に移してもらえるよう受診勧奨やがん予防の保健活動を進めていくことが大切である。

今回胃がん検診を受けようと思ったきっかけで、訪問群に有意に多かったのは『新庄では胃がんで死亡する人が多いことを知ったから』であった。これは、住民が地区の問題を知ることにより、自らの問題として考えるきっかけとなったのではないか。この情報は地区把握により明らかとなったものであり、保健婦は、地区の問題を的確に捉え、その情報を住民へ返していくことが大切であると考えられる。

V. おわりに

今回新庄地区において、胃がん検診受診率が上昇しているにも関わらず胃がんによる粗死亡率が減少していないことに着目し、その予防のための意識及び行動変容を促すため訪問指導を行い、その効果を検討した。その結果、今回は明らかな行動変容はみられなかったが、訪問指導により胃がん予防についての正しい知識の普及につながった。

胃がん予防に対する取り組みとして正しい知識の普及と共に、保健婦は地区把握で得た情報を地区の問題として住民に返し、住民が自らの問題として考え行動に移してもらえるよう指導することが大切であると学んだ。

この研究で学んだことを今後の保健婦活動に生かしていきたいと思う。

最後にこの研究を行うにあたりご協力くださいました新庄地区のみなさま、富山市民健康センターの方々に深謝致します。

引用文献

- 1) 金子仁子：胃がん検診を促すパーソナルなはたらきかけの効果、保健婦雑誌、468(2)：1990；149-155.
- 2) 森尾真介：地域住民のがん検診参加に関する研究、日本公衆衛生雑誌、37(8)：1991；559-567.
- 3) 河内卓：病気を治す「野菜たっぷり食生活」、暮らしと健康、5月号：1987；12-13.
- 4) 加藤育子、富永祐民：胃癌と栄養・食事、公衆

衛生, 51(3) : 1987 : 197-201.

- 5) 廣畑富雄 : がんとライフスタイル, 日本公衆衛生協会 : 1992 : 60-61.

資料：胃がん検診調査票

<胃がん検診についてお尋ねします。>

問1. 今年に入ってから胃がん検診を受けられましたか？

a～cのうち一つ選び○をつけ、a（受けた）の方はいつ受けたのかも記入して下さい。

- a. 受けた（平成4年 月 日頃）
- b. 受けていないし、受けようとも思わない
- c. これから受けようと思っている

<問1でa（受けた）、c（これから受けようと思っている）に○をつけた方のみお答え下さい。>

問2. あなたが、胃がん検診を受けようと思ったきっかけは何ですか？

a～kそれぞれの（ ）内の該当するものに○をつけて下さい。

- a. 家族知人に勧められたから （はい・いいえ・どちらとも言えない）
- b. 新庄では胃がんで死亡する人が多い （はい・いいえ・どちらとも言えない）
ことを知ったから
- c. 早期発見が大切であることを知ったから （はい・いいえ・どちらとも言えない）
- d. 近所で胃がん検診を受けられること （はい・いいえ・どちらとも言えない）
を知ったから
- e. 検診の内容について知ったから （はい・いいえ・どちらとも言えない）
- f. バリウムが飲みやすくなっているこ （はい・いいえ・どちらとも言えない）
とを知ったから
- g. 訪問で勧められ行かなければ悪いと （はい・いいえ・どちらとも言えない）
思ったから
- h. 毎年、医療機関や職場で受けている （はい・いいえ・どちらとも言えない）
から
- i. 自覚症状があったから （はい・いいえ・どちらとも言えない）
- j. 家族・知人がガンだったから （はい・いいえ・どちらとも言えない）
- k. その他 （ ）

<問1. でb (受けていない), c (これから受けようと思っている) に○をつけた方のみお答え下さい。>

問3. あなたはどのようにして胃がん検診を受けなかったのですか？

a～eそれぞれの()内の該当するものに○をつけて下さい。

- a. 忙しかったから (はい・いいえ・どちらとも言えない)
- b. 職場や医療機関などで検診を受けているから (はい・いいえ・どちらとも言えない)
- c. 自覚症状がないから (はい・いいえ・どちらとも言えない)
- d. バリウムの味や飲みにくさが嫌だったから (はい・いいえ・どちらとも言えない)
- e. 便秘になるのが嫌だから (はい・いいえ・どちらとも言えない)
- f. その他 ()

<皆さんにお尋ねします>

問4. ハガキで胃ガン検診(未受診)を勧められることについてどう思いますか？

a～cのうち1つ選び記号に○をつけて下さい。

- a. 賛成
- b. いない
- c. どちらでもよい

問5. 訪問で個別指導を受け、胃がん検診(未受診)を勧められることについてどう思いますか？

a～cのうち1つ選び記号に○をつけて下さい。

- a. 賛成
- b. いない
- c. どちらでもない

問6. 胃がん予防にとってより大切だと言われてどちらだと思いますか？

1)～12)のそれぞれのa, b, どちらかに○をつけて下さい。

同じ組み合わせが出てきても前のを気にせず、思った方に○をつけて下さい。

例) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. りんご} \\ \text{b. みかん} \end{array} \right.$

- | | | |
|--|--|--|
| 1) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 減塩} \\ \text{b. 牛乳をよく飲む} \end{array} \right.$ | 2) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 緑黄色野菜をとる} \\ \text{b. 卵をよく食べる} \end{array} \right.$ | 3) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 減塩} \\ \text{b. 緑黄色野菜をとる} \end{array} \right.$ |
| 4) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 卵をよく食べる} \\ \text{b. 牛乳をよく飲む} \end{array} \right.$ | 5) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 牛乳をよく飲む} \\ \text{b. 緑黄色野菜をとる} \end{array} \right.$ | 6) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 卵をよく食べる} \\ \text{b. 減塩} \end{array} \right.$ |
| 7) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 牛乳をよく飲む} \\ \text{b. 減塩} \end{array} \right.$ | 8) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 緑黄色野菜をとる} \\ \text{b. 減塩} \end{array} \right.$ | 9) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 牛乳をよく飲む} \\ \text{b. 卵をよく食べる} \end{array} \right.$ |
| 10) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 卵をよく食べる} \\ \text{b. 緑黄色野菜をとる} \end{array} \right.$ | 11) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 緑黄色野菜をとる} \\ \text{b. 牛乳をよく飲む} \end{array} \right.$ | 12) $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 減塩} \\ \text{b. 卵をよく食べる} \end{array} \right.$ |

御協力ありがとうございました。